

国語 2026 年度一般選抜 出題の意図

高校の学習内容が十分に身についているか、大学入学後の勉学を進めるために必要な国語力があるかを見ることを目的とした出題を行っている。大問 3 題の構成とし、大問 1・大問 2 は論理的文章を題材とした読解問題、大問 3 は独立した漢字問題としている。

大問 1・2 では、文章の論理展開と趣旨を多角的に把握する力を測るよう意図した。傍線部の内容・理由の説明、本文全体との内容合致に加え、接続語や内容語の空欄補充、語句の組合せ、一文の挿入箇所、要約・中心内容の選択などを出題し、前後の文脈、段落間の関係、複数箇所の情報を結び付けて判断する力を見る構成としている。また、本文中の漢字の読み書きや語句の意味・用法も問い、文章理解の基礎となる語彙力を確認している。題材は、言語・翻訳や文化・宗教を扱う新書・一般書から取り、専門知識そのものではなく、本文の説明や具体例を手がかりに論旨を追えば解答できる難易度を意識している。

大問 3 では漢字問題が 5 題出題されている。短い文中のカタカナを適切な漢字に直し、その漢字を含む別の熟語を選ぶ形式とし、同音異義語を文脈に即して書き分ける力や、熟語の意味を正しく理解しているかを確認する狙いがある。

※各問いの詳細は、一般選抜前期日程(2 月 7 日実施)の内容を具体例として記載しております。

英語 2026 年度一般選抜前期日程 出題の意図

第 1 問から第 3 問は、いずれも英文を読み解く問題である。語句の意味、指示語の内容、各段落の要旨、本文の趣旨に沿う記述などを問うことにより、高等学校までに身につけた語彙・文法の知識を土台として、話の展開や論理のつながりを追いながら本文を正確に読み取る力を確認している。中でも第3問は、前後の文脈と文の組み立てを手がかりに空所へ入る語を選ぶ形式とし、身につけた知識を実際の読解場面で活用する力をみている。

第 4 問から第 6 問では、文法・語彙および語順整序による英文構成を扱っている。第 4 問では、時制・態、動詞の語法、主語と動詞の一致、比較、関係詞、接続詞、否定表現などについて、第 5 問では日本語が示す内容に合う語を選ばせる形式で基礎的な語彙の使い分けについて、第 6 問では与えられた語を並べ替えて英文を組み立てる力について、それぞれ確認の対象としている。いずれも文全体の骨組みを踏まえ、学習してきた知識に基づいて適切な形を判断する力を確認している。

なお、読解問題には一部下線部の和訳や指示語の内容説明を記述式で設け、英文の内容を理解したうえで、それを日本語で的確に表現する力もあわせて確認している。全体としては、身近な事柄から言語や文化、社会にかかわる事柄まで幅広い題材を取り上げ、形式の異なる設問を組み合わせることによって、読解力・語彙力・文法力を総合的に評価することをねらいとしている。

※各問いの詳細は、一般選抜前期日程(2 月 7 日実施)の内容を具体例として記載しております。

政治・経済 2026 年度一般選抜前期日程 出題の意図

現代社会に関わる具体的な事例や制度を題材とするリード文を読み、空欄補充問題に加えて文章の正誤判断問題や計算問題を通じて、教科書レベルの基礎知識から応用的な理解力までを総合的に測る出題とした。現代日本の政治・経済と、国際政治・国際経済に関わる内容を取り上げ、制度や仕組みの理解にとどまらず、それらが現代社会でどのような役割を果たし、どのような課題を抱えているかまでを問う構成としている。知識を現実社会の諸問題と結びつけて理解できているかを評価することを意図している。

第1問は、インターネット上の性的広告への対策を伝える新聞記事を題材に、子どもの人権、男女平等、表現の自由に関する知識と理解を問うた。日本国憲法の人権規定や、それらに関連する条約・法律の知識に加え、わいせつな表現と表現の自由の関係を、判例の内容も踏まえて理解できているかを重視している。

第2問は、貿易と国際分業を主題として、比較生産費説や外国為替の仕組みについて取り上げた。用語の空欄補充問題に加え、比較生産費説にもとづく特化の前後で生産量がどう変わるかを実際に計算する設問や、円高・円安が輸入品の価格などに与える影響を判断する設問を通じて、国際経済の基礎理論を具体的な事例に即して適用・考察する力を問う構成としている。

第3問は、日本的雇用慣行の変容と非正規雇用の拡大といった、労働をめぐる現代的な課題を扱った。労働法制に関する用語の空欄補充問題に加え、日本的雇用慣行が崩れた背景や、雇用形態による待遇差・労働時間制度など、働き方改革に関わる基本的な用語と制度の趣旨を理解しているかを問うことを意図している。

第4問は、主権国家体制の成立と国際法の確立・運用について出題した。近代国際社会の成立過程や国際法の基礎概念だけでなく、国連海洋法条約や国際司法裁判所の役割といった観点から、国際社会における法の意義と課題を理解できているかを重視している。

※各問いの詳細は、一般選抜前期日程(2月7日実施)の内容を具体例として記載しております。

日本史 2026 年度一般選抜前期日程 出題の意図

この試験問題では4つの大問をそれぞれ原始・古代、中世、近世、近現代にあてる構成をとり、また設問の大半を基礎的な語句問題にあてている。これは基礎～標準レベルの知識を幅広く身につけているか否かを問うことを意図したものである。一方で問題文は「教科書そのまま」ではなく現在の学術的水準も意識した筆致とし、設問の一部はそのなかに設けた空欄を補充させるかたちをとっている。これは本文読解作業をとおして、試験の場が歴史的知識・理解の再確認と定着の場となることをも意図したものである。また知識を単なる断片としてではなく、歴史的文脈にむすびつけた理解ができているか否かの測定も試みている。

第 1 問は縄文時代について基礎的知識を問うとともに、その生活が温暖化による自然環境の変化に適応したものであることについての理解力を測定している。

第 2 問は南北朝・室町時代の文化について基礎的知識を問うとともに、それが当時の国際関係の変化に応じて形成されたものであることについての理解力を測定している。

第 3 問は幕藩体制の成立・確立過程について基礎的知識を問うとともに、選択式ながら事件・事象の前後関係を判断させる設問を設けることで、歴史的文脈を把握できているかを測定している。

第 4 問は第一次世界大戦から 1920 年代にかけての経済事象について基礎的知識を問うとともに、それが国内外の政治情勢とも関連すること、および技術の進歩とも関係があることの理解を測定している。

※各問いの詳細は、一般選抜前期日程(2月7日実施)の内容を具体例として記載しております。

世界史 2026 年度一般選抜前期日程 出題の意図

特定の国・地域の歴史を題材とするリード文を読み、空欄に語句を補充する問題を通じて、基礎知識から応用的な理解力までを総合的に測る構成としている。空欄の大半は語群からの選択としつつ、各大問で特に重要な語句は記述形式とすることで、用語を正確に書く力も評価している。一問一答的な知識ではなく、文脈の中で用語を適切に理解しているかを重視し、古代から現代まで、また西アジア・アメリカ・中国と、複数の時代・地域にわたる構成として、時代の推移や地域間の関わりの中で歴史を捉える力を問うている。

第 1 問は、古代オリエントのうちメソポタミアを中心に、都市国家の形成から統一王朝の成立、周辺諸民族の進出へと至る諸民族の興亡を扱った。王朝や民族の交替を暗記するだけでなく、灌漑農業や楔形文字、六十進法、暦法といった文明の特質と関連づけて理解できているかを重視している。

第 2 問は、19 世紀のアメリカ合衆国の歴史を扱い、奴隷制をめぐる南部と北部の対立から南北戦争の勃発、その後の国家再建と経済発展の様子について問うた。南北間の経済構造や政策をめぐる立場の違いという対立の背景を踏まえ、内戦の経過と戦後の社会・経済の変化を一連の流れとして理解できているかを問う構成としている。

第 3 問は、明の成立期を中心とする中国史を扱い、建国期における皇帝独裁体制の強化や農村統制、それに続く積極的な対外政策を中心に出題した。諸制度を個別に覚えるにとどまらず、元末の混乱を收拾した明がどのような統治によって支配を安定させたかについて、諸制度と関連づけて理解しているかを重視している。

第 4 問は、1970 年代の中東戦争と石油危機を起点として、現代の西アジアの歴史を扱った。石油戦略が世界経済に与えた影響と、アメリカの仲介による中東和平の進展、イランにおける体制の変化といった中東の政治変動を、国際関係の中で位置づけて理解できているかを問う意図で作成している。

※各問の詳細は、一般選抜前期日程(2月7日実施)の内容を具体例として記載しております。

地理 2026 年度一般選抜前期日程 出題の意図

地形、地域の特色、資源・産業、国家と領域に関する内容について、リード文の空欄補充問題を中心に、地形図や統計などの資料を用いて出題した。教科書で扱う基礎的事項を確認する設問を中心としつつ、地形図の読図や統計資料の判読など、リード文の理解も踏まえて資料を読み取る力を問う設問も設定した。

第 1 問は、砂がつくる地形と人間の生活について、地形図とリード文を用いて出題した。地形図・地図記号の読図に加え、海岸地形の形成とその用語の理解を確認した。また、土砂の運搬・堆積作用や砂地における土地利用、海岸部で生じた環境問題など、自然環境と人間生活の関わりを捉える力を測っている。

第 2 問は、オーストラリア大陸の自然環境と農牧業について、リード文を用いて出題した。安定陸塊・古期造山帯といった大地形、気候帯・気候区の分布や主要都市の気候といった自然環境の特色を中心としつつ、先住民の文化や農牧業の特色についても出題し、オーストラリアの地誌を幅広く理解できているかを問うている。

第 3 問は、鉄を題材とするリード文を用いて出題した。鉄鉱床の形成と大地形の関係についての理解に加え、鉄鉱石の産出国・輸出国・輸入国の統計判読、脱炭素社会への動きや製鉄業の企業統合といった時事的な話題への理解も確認している。

第 4 問は、国家と領土について、リード文を用いて出題した。主要国における国家の形態や構成を問うとともに、社会主義国・資本主義国という国家体制の理解も問うた。また、国家の三要素やその一つである領域といった基礎事項を踏まえ、日本の領域の変化や国境をめぐる紛争など、具体的な事例に即して、領域と国家間の関係を理解しているかを確認している。

※各問いの詳細は、一般選抜前期日程(2月7日実施)の内容を具体例として記載しております。

数学 2026 年度一般選抜前期日程 出題の意図

数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学Ⅳを出題範囲とし、各分野の基本的な概念や公式が確実に身につけているかを、計算を中心とした問いによって確かめることを基本としている。あわせて、確実な計算力を土台としながら、与えられた条件を正しく読み取って整理する力や、異なる分野の内容を結びつけて解答を導く力まで、多面的に問うている。

第1問は小問集合で、多項式の展開、複素数を代入した式の値、対数方程式の3問を出題している。展開では基本的な計算の正確さを問い、複素数を代入する問題では、次数を下げる工夫を通じて複素数の演算に関する理解を確認している。また、対数方程式では、対数の性質を用いた式変形と真数条件への注意を見ている。

第2問は集合に関する問題である。1以上10以下の整数を全体集合とし、共通部分や補集合を用いて与えられた条件から、二つの部分集合を確定させる。共通部分・和集合・補集合の相互関係を正しく読み取り、各要素を過不足なく振り分ける力を問うている。

第3問では命題の真偽の判定を取り上げている。座標平面上の5点から3点を選んでつくる三角形の個数、累乗根や指数で表された数の大小比較、すべての自然数 n について $13^n - 1$ が12の倍数となるかという整数の性質の3題からなる。反例の有無を吟味し、根拠をもって真偽を判断する力を測る問題である。

第4問は数列を題材とした出題である。隣り合う2項の差が分数の形で与えられた数列について、まずその差を部分分数に分解する恒等式から定数を定めさせ、続いてその結果を用いて一般項を求めさせている。

第5問では、三次関数の最大・最小と、それを活用して三角関数へ応用する問題を段階的に出題している。まず前半は、指定された区間における三次関数の最大値と最小値を微分法により求めさせる。後半は、与えられた三角関数において、余弦を一つの変数とおけば前半の三次関数となることを利用して、指定された区間で三角関数が最大・最小となる角を求めさせている。前半で得た結果を後半に用いる構成としている。

第6問は放物線と直線を題材とした出題で、はじめに放物線と直線の共有点の座標を求めさせる。続く連立不等式の表す領域については、境界となる直線や放物線の位置関係を把握したうえで、定積分を用いて面積を求めさせている。図形的な把握と積分計算を結びつける力を見ている。

第7問は円と直線に関する問題である。与えられた円と直線が2点で交わるとき、その弦の長さの条件から、円の中心と直線との距離を求めさせる。円の中心と半径を定めたうえで、円の中心と直線との距離を、三平方の定理を用いて求める力を問うている。

※各問いの詳細は、一般選抜前期日程(2月7日実施)の内容を具体例として記載しております。

簿記会計 2026 年度 一般選抜前期日程(2 月 7 日) 出題の意図

全体として「簿記」の範囲からは、仕訳問題、精算表作成問題、計算問題等を、「財務会計Ⅰ」の範囲からは、語句補充問題を出題している。

第1問は空欄補充式問題である。出題内容は、「財務会計Ⅰ」の範囲から、会計の種類、貸借対照表の作成方法、損益計算書の基準などである。

会計の意義、財務諸表の作成方法・作成の基準などの理解度を問うている。

第2問は仕訳問題である。その他の債権・債務(立替金・預り金)、手形の裏書、手形の不渡り、有形固定資産の売却、個人企業の資本取引・税金など、全て「簿記」の範囲から出題している。

いずれの問題も教科書に掲載している基本的な仕訳内容の理解度を問う内容である。

第3問は精算表作成問題である。残高試算表と決算整理事項により8桁精算表を作成させる形式である。

決算整理事項は、3分法による商品売買損益の計算、貸倒れの見積もり、減価償却費の計上、消耗品の処理、費用・収益の繰延・見越しなど8項目である。

各決算整理事項の理解度と精算表の作成方法の理解度を問う問題である。

第4問は、計算問題2問である。

1問目は、資産・負債・収益・費用の各数値を基に、期首・期末の純資産、期末売掛金、損益計算の各数値を求めさせる問題である。

2問目は、1問目の数値を基に、流動比率、当期純利益の計算方法などを求めさせる問題である。

2問とも、簿記の5要素についての理解度と、財政状態と損益計算に関する計算力を問うている。

以上、「簿記」の範囲を中心にして、一部「財務会計Ⅰ」の範囲からも出題しており、各項目の定義・分類の理解度、仕訳・決算整理仕訳の力、精算表の作成力、簿記の5要素の数値計算などの理解度を問う狙いがある。

簿記会計 2026 年度 一般選抜前期日程(2 月 8 日) 出題の意図

全体として「簿記」の範囲からは、仕訳問題、精算表作成問題、計算問題等を、「財務会計Ⅰ」の範囲からは、語句補充問題、計算問題を出题している。

第 1 問は空欄補充式問題である。出題内容は、「財務会計Ⅰ」の範囲から、会計の種類、企業会計原則、連結財務諸表作成、満期保有目的の債券、のれんなどである。

会計の意義、企業会計原則、連結財務諸表及び各個別単元の基本的理解度を問う問題である。

第 2 問は仕訳問題である。現金預金、現金過不足の処理、手形の割引、クレジット売掛金、有形固定資産の売却、売買目的有価証券の購入など、全て「簿記」の範囲から出题している。

いずれの問題も教科書に掲載している基本的な仕訳内容の理解度を問う内容である。

第 3 問は精算表作成問題で、決算整理事項に基づいて 8 桁精算表を作成させる形式である。

決算整理事項は 3 分法による商品売買損益の計算、貸倒れの見積もり、減価償却費の計上、有価証券の評価、消耗品の処理、費用・収益の繰延・見越しなど 8 項目である。

各決算整理事項の理解度と精算表の作成方法の理解度を問う問題である。

第 4 問は、計算問題 2 問である。

1 問目は、総勘定元帳残高(資産のみ)と決算整理事項(3 項目)に基づき、貸借対照表(一部)を作成させる問題である。

2 問目は、棚卸資産の期末評価の問題で、棚卸減耗損と商品評価損を求めさせる形式である。

ともに、資産の各単元の基本的内容を踏まえて、貸借対照表の作成と棚卸資産の期末評価の理解度を問う問題である。

以上、「簿記」の範囲を中心にして、一部「財務会計Ⅰ」の範囲からも出题しており、各項目の定義・分類の理解度、仕訳・決算整理仕訳、精算表の作成力、棚卸資産の期末評価などの理解力を問う狙いがある。